

# 和紙

## 歴史

加賀では、平安時代から和紙が漉[す]かれていたと言われているが、盛んになったのは江戸時代以降のことである。

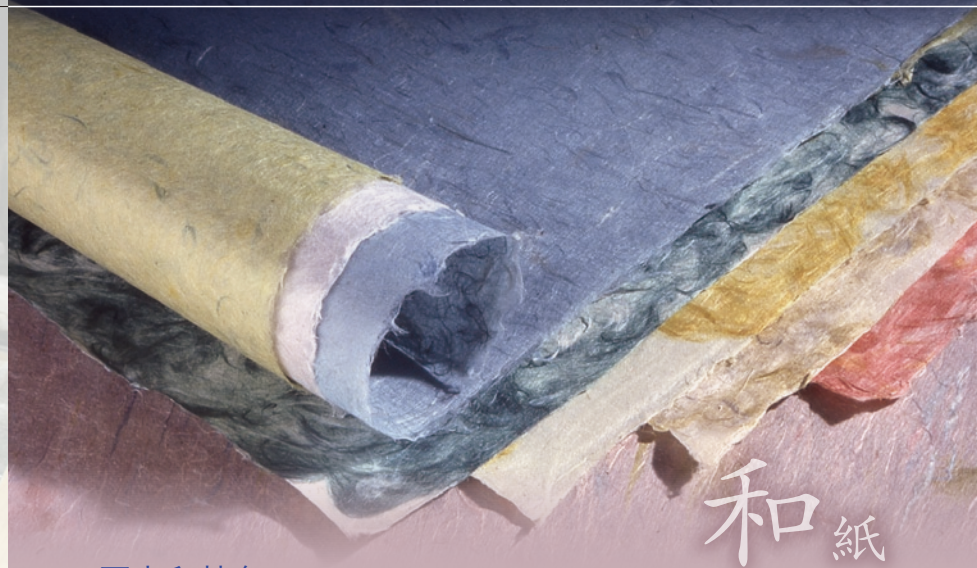
文禄元年(1592)以来、金沢市の山間地に位置する二俣[ふたまた]は献上紙漉き場として加賀藩の庇護[ひご]を受け、加賀奉書[ほうしょ]など高級な公用紙が漉かれていた。また、天明4年(1784)には、敦賀から製法を学び、川北町で雁皮[がんび]紙が漉き始められ、西陣織の金糸、銀糸の芯紙として使用された。現在は、金箔の箔打ち紙に使用されている。さらに、輪島市仁行[にぎょう]でも、古くから付近のコウゾを使って紙漉きが行われている。

## 特色

加賀二俣和紙は、すべて国産の原料を使用しており、各漉き場では自家採取と国内の原料で生産している。現在は、箔打ち紙や、工芸、表具用の紙を漉いている。

また、川北町の和紙は加賀雁皮紙と呼ばれており、雁皮紙は別名斐紙[ひし](美しい紙)と呼ばれ、和紙の王様と呼ばれている。ただ、原料のガンピが栽培困難で、自生したものを採集して生産するだけとなっている。

輪島市の和紙は能登仁行和紙と言われ、ササやスギ皮、海藻などを漉き込んだ能登唯一の創作和紙である。



# 和紙

## 历史和特色

在加贺地区，据说从平安时代开始用纸浆制造和纸，江户时代之后非常盛行。自文禄元年(1592)后，地处金泽市山区的二俣地区作为进献纸的制造产地，受到了加贺藩的庇护，制造加贺奉书等高级公用纸。天明4年(1784)，川北町学习敦贺地区的制造法，开始制造雁皮纸，用于西阵织的金线、银线的芯纸。现在，雁皮纸用于金箔的打箔纸。此外，在轮岛市仁行地区，从古代就开始利用周边的楮树，从事造纸业。

现在，加贺二俣的和纸被用于打箔纸、工艺品以及装裱用纸。轮岛市的和纸被称作能登仁行和纸，它是用细竹和杉树皮、海藻等制作而成，是能登唯一的创作和纸。

## 情報 资讯

主な生産地(主要产地)	金沢市(金泽市)・川北町(川北町)・輪島市(轮岛市)
主な製品名(主要产品名)	奉書、箔打ち紙、和装小物、壁紙(奉书, 打箔纸, 日式服装小饰品, 壁纸)
主な生産者(主要生产者)	石川和紙の会(石川和纸会) 〒920-1102 金沢市二俣町18(金泽市二俣町イ8) TEL (076)236-1062